



本日は復興を考えるというテーマで、町内会自治会等での地域防災活動と地域リーダーとして感じていらっしゃる不安について、本音ベースでお話をいただきました。事前復興まちづくりの中心は「くらし」の回復にあり、このように地域防災活動の延長として捉えていただいたことに深く感謝申し上げます。一方で備蓄している食料や水は、一度供出して終わってしまうかもしれない、今回テーマとした在宅避難生活は1週間程度では解消しない可能性もあるが、地域としてどう考えたらよいか、という質問もいただきました。能登半島地震被災地では、各集落での備蓄がいったん底をついても、3日後あたりから、行政や民間からの支援物資が到着し、直後対応に継続して集落としての支え合いの中で、避難生活を乗り越えていった集落も少なくありません。つまり町田でも地域組織を中心として直後緊急期を乗り越えることで、数日後からは支援物資も到着し、地域組織を核とした在宅避難生活からの「くらしの回復」について見通しが立ってくる。災害備蓄は地域協働復興にもつながってくる、そんな共感が広がった点、とても大切な成果と感じます。

(東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 市古太郎教授)



もともと地域の課題は皆さんよくご存じて、それに対し様々な取り組みがされていることを教えていただきました。地域の復興の話し合いをする中でも、ひとつ先の組織づくりの話にまで内容が及んでいたのも、今後何か市に相談をする際にも、今回の話し合いをヒントに深く話ができると思い込みました。

(東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 益邑明伸助教)



高ヶ坂地区は複数の町会・自治会がありながらも仲良くやっているようで、地域の今後の復興を考える中では、単独の町会だけではなく、お互いに広く連携してやっていくための基盤ができているように思いました。今回のグループ内で完結させるのではなく、より広く復興を考えていくということにつなげていけると良いと思います。

(工学院大学 建築学部 まちづくり学科 村上正浩教授)

■■ 次のSTEPに向けて… ■■

次のSTEP3では、これまでの学びをもとに「地区の復興像をみんなで描く」段階に入っていきます。

実際に被災してしまった際に1日でも早い復興を進めるためには、地区の将来像をどのように描いていくのか、地域の皆様が協力して地域力を活かした組織『地域復興協議会』をつくるのが重要なポイントとなります。

ここでは、**地域復興協議会** について、より詳しく説明します。

ちいきふっこうきょうぎかい

### 地域復興協議会

どんな組織？

被災地区ごとに構成され、地域力を活かした“復興の核”となる組織です。被災後に、町内会自治会等の既存の地元組織、消防団、地元事業者等から構成することを想定しています。

どんな役割？

想定される役割①	想定される役割②
<b>地域</b> の声を行政に届ける 地域と行政の調整役となり、被災後に行政が作成する「都市復興基本方針」を受け、「都市復興計画」について、地域の意見をとりまとめて行政に提案する役割を担っています。	<b>地域</b> の復興活動を主導する 環境整備、生活改善、地域安全等の活動に関するルールを定めたり、時限的市街地*の設置や仮設建築物づくりの際には地域のニーズ把握や合意形成支援などを通して行政との協議を行います。

\*時限的市街地とは…本格的な復興まで生活を支える場として、仮設による住宅、店舗、事業所など利用可能な建築物等で構成される市街地のこと。

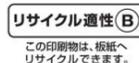
町田市における事前都市復興の考え方 ～事前都市復興基本方針～

「町田市における事前都市復興の考え方」では、行政と市民それぞれが平時から備えておくべき事項を示しているほか、本書において市内の想定される建物被害を確認し、町田市における災害リスクの特徴や課題を紹介しています。また、復興まちづくりに関する情報をホームページや広報、動画配信等で発信しています。

お住まいの地区で復興まちづくりについて考えたい等のご要望があれば、下記までご連絡ください。



町田市における事前都市復興の考え方 (市ホームページ)



# 復興まちづくり訓練の記録

～ 模擬体験編 ～

2025年11月 高ヶ坂地区



**事前都市復興** とは、まちが災害によって被害を受けてしまうことを想定し、災害が発生する前から被災後のまちづくりの方針や復興プロセスについて検討し、必要な準備を進めておくことです。このうち、**地域主体で行う被災後のまちづくりに関する活動**を **復興まちづくり** といいます。

被災後、自治体では都市復興に取り組むこととなりますが、地域の復興を進めるためには、地域の皆様の主体的な参画が欠かせず、避難生活をしながら、生活の回復やまちの復興などについて考えていくこととなります。

町田市では地域の皆様が平時から復興まちづくりについて考え、理解しておくための取組として **4つのSTEP** を掲げており、今回の訓練はSTEP3「地区の復興像をみんなで描く」ための土台を整える取組です。

今回の訓練では、避難生活をおくる際に、様々な立場で考えられるよう、仮想の家族になりきって被災後のことを考える「復興ロールプレイ訓練」を行い、自分自身や地域の皆様で考えること・取り組むことについて話し合いました。また、「まちの復興」について、自助(自分)、共助(地域)、公助(市)で取り組むことなどの意見交換を、高ヶ坂地区の方々と共に実施しました。

■■ 復興まちづくり・4つのSTEP ■■

## STEP1 都市復興についての理解を深めよう

都市復興とは何なのか・何をすべきなのか情報を集め、地域や行政が開催するセミナーや勉強会等へ足を運ぶことから始めてみましょう。

◆毎年開催 **事前都市復興セミナー「今から考えるまちの復興」**  
市では、東京都立大学の先生をお招きし、事前都市復興についてわかりやすく解説するセミナーを開催しています。過去の災害から学ぶべきこと、事前都市復興の意義、復興における地域参画の重要性等について、知ることができます。



## STEP2 地区の課題や資源を把握しよう

まちを復興していく際に課題になりそうなことや復興後も残していきたい地域資源など、お住まいの地区の“地区特性”を把握しましょう。

◆2024年11月 **事前都市復興 まち歩き訓練 (高ヶ坂地区)**  
実際に地域を歩いて、災害後の復興に関する地域の課題や、将来にわたり残すべき地域資源等を確認することを目的とし、「まち歩き訓練」を実施しました。



◆2025年11月 **事前都市復興 模擬体験 (高ヶ坂地区)**  
仮想の家族になりきり、避難生活の過ごし方や、まちの復興に至るまでの自助・共助・公助のプロセスをイメージし、STEP3「地区の復興像をみんなで描く」ための土台を整える取組として「模擬体験」を実施しました。



訓練の内容は内面をCheck!

日時：2025年11月15日(土) 10:30～13:00  
参加者：8町内会・自治会 計26名

(高ヶ坂第一町内会、高瀬住宅自治会、芝好園自治会、高北自治会、高ヶ坂住宅自治会、晴見台自治会、高美台町内会、高ヶ坂第2アパート自治会)  
共同研究：東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 市古太郎教授・益邑明伸助教  
協力：工学院大学 建築学部 まちづくり学科 村上正浩教授

## STEP3 地区の復興像をみんなで描こう

把握した地区の課題・資源などをもとに、被害が発生した際の対応や復興像などについて、訓練等を通して地区の皆様と話し合い、共有しましょう。

## STEP4 地区の復興まちづくり活動として展開

STEP1からSTEP3の取組を地区に適した形として整え、できることから継続的に地区の復興まちづくり活動として展開してみましょう。

